

山梨県神社庁報

かみかね

祝祭日には国旗を掲げましょう



5月3日 憲法記念日
5月4日 みどりの日
5月5日 こどもの日
7月17日 海の日

第177号 (平成29年4月20日)



文化財登録を受けて

稚児の舞

河口浅間神社

宮司 中 田 進

当神社に奉納される「稚児の舞」が本年文化庁より重要無形文化財の指定を受けた。平成二十五年世界遺産構成神社に登録された事に続き、この上ない慶びであると供に更にも重き責任を感じる。この舞は貞観六年富士の大噴火に創建された当神社の象徴的な舞で、穢れを知らぬ童女の稚児たちが浅間大神の荒御霊をお慰めしたもので、古代よりのしきたりに則り舞を奉納する。氏子中の両親の健全な童女で、衣装は白衣の上に緋の千早、差抜きをまとい、上には錦織の陣羽織、緋の袴を懸け、頭には誠を捧げる意味の熨斗紙を挿し、舞環珞を戴く。舞は時間と場所を神の世界に誘う独特の空間を創る。

少子化で稚児不足、楽土の後継者も必要とされ安泰では無いが地域に守られてきた神社・舞は今こそ地域の再構築に、寄与できる事もあるのではないかと考えている。

敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であって、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。

神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を発揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。

ここにこの綱領をかかげて向うところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと

一、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと

一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること

神宮大麻暦頒布終了祭並び
神宮大麻暦頒布春季推進会議報告

南都留支部 支部長 上文司 厚

三月五日に神宮で斎行された平成二十八年度の神宮大麻暦頒布終了祭に際し、小佐野副庁長、飯田参事と共に大宮司招宴に出席のため前日の四日から伊勢に赴いた。当日は午前十時から内宮神楽殿で鷹司尚武神宮大宮司以下の神職奉仕のもと、神社本庁役員、全国の神社庁長などが参列し斎行された。

祭典の後、神宮会館へ移動し直会。午後零時三十分から大講堂で神宮大麻暦頒布春季推進会議が開催された。先ず鷹司大宮司、神社本庁統理（田中恆清総長代読）が挨拶。引き続き小串和夫副総長が議長となり議事に入った。最初に鳥海芳行神宮司庁頒布部長が二十八年度の神宮大麻・暦の交付数と頒布数を報告。大麻の頒布数は八百六十二万六千六百六十二体で前年度を三万五千五百七十体下回り、七年連続

で減体となった。次に湯澤豊本

庁本宗奉賛部長が平成二十九年度から始められる予定の第二期「三カ年継続神宮大麻都市頒布向上計画」について説明。第一期計画から再検討した点などに触れた。引き続き第一期「三カ年継続神宮大麻都市頒布向上計画」に従ってさまざまな取り組み

んだ、山形県神社庁の事務局長、愛媛県神社庁の教化委員長からそれぞれ頒布事例報告があった。二県ともに多角的に頒布向上に努めた具体的事例を述べた。しかしながら増体に結び付く十分な対策が打ち出せてない現実を報告。今後も粘り強く腐心していく熱意も現わしていた。

神宮は外宮内宮共に相変わらず大勢の参拝者で賑わっていた。昨年の参拝者数は統計史上四番目の八百七十万人を数えた

という。式年遷宮、更には伊勢志摩サミットを契機に神宮や神社、更には神道に関心が寄せられている昨今だが、それが神宮大麻にまで及んでない。山梨県でも前年度比千三百体減となっている。当県も先述の頒布事例報告をした二県に劣らず、弛まぬ努力を続けている。四日の招宴での大宮司挨拶の中の「大麻頒布増進への活動は負けたら終わりではなく止めたら終わり」というお言葉があった。神宮大麻奉斎啓発は手を緩めてはならない。



神宮大麻暦頒布向上計画研修会

峡北支部 支部長 森 越 義 建

平成二十九年三月六・七日の両日に亘る、第三回「神宮大麻都市頒布向上計画研修会」が神宮会館で開催された。

この研修会は「三カ年継続神宮大麻都市頒布向上計画」の頒布活動を踏まえ、大麻奉斎の意義を再確認と共に、有効な施策や実践方途を修得し、相互の意見交換を通じ、次期施策の策定展開に資することを目的に開かれた研修会である。各県神社庁の推進委員、施策担当者、事務担当者等の神職六十三名が参加。

本県からは塚川峡中支部長、森越峡北支部長の二名が研修会に参加した。
 六日初日午後一時、神宮会館参集受付を済ませ、午後二時開講式、その後両宮を参拝し、神宮大麻奉製について、神宮司庁頒布部担当者の案内で、清浄を第一とし、白衣着用にて大麻一体一体を鄭重に奉製している関連施設の説明を聞きながら、奉製所内を見学。続いて神宮司庁鳥海芳行頒布部長より、神宮大麻について講義。神宮大麻頒布はじめ、頒布大麻と社頭授与大麻との違い又頒布についての心

得等が示され、最後に返戻大麻お焚上減少への協力要請もあつた。

続いて神社本庁湯澤豊本宗奉賛部長が神社本庁の施策について、第二期「三カ年継続神宮大麻都市頒布向上計画」案を提示し、報告書の概要説明、神宮大麻頒布向上の効果的な方途、今日の社会状況を踏まえつつ、継続的な施策の展開を通し、頒布の向上を図る計画を策定し、神社本庁・神社庁・支部及び各神社の連携による、教化実践目標と連動しつつ推進して参りたい。本庁施策に御理解を戴き、共に各神社庁各支部でも活動計画を策定の上頒布向上に御尽力願いたいと述べ又神宮大麻奉斎啓発資料に、一般向けリーフレット「氏神さまと神宮大麻」と「御朱印用特製当て紙」などの活用を呼びかけた。

二日目、神宮帯頒布の実践例について、推進活動に関する実践例が、福井・愛知の二県より発表がされた。
 初めに福井県神社庁教化委員会谷川元孝本宗奉賛部長が、福井県の神宮大麻頒布向上の取り

組みとして、概況・推移・計画遂行の体制・重点施策地域三支部設定の具体化に向けた取り組みが発表され、啓発ポスター制作やテレビCMの放映、折込みチラシ、簡易神棚の配布で頒布向上を計っていると報告した。
 続いて、愛知県神社庁名古屋千種支部の吉田玄支部長から、県内で二支部ある重点施策地域内のモデル神社における頒布活動について発表、名古屋千種支部の猪子石神明宮では神社名を印刷したポスターの掲示やチラシの配布、神社公式ホームページの開設等を実施した。特に神社境内設置看板が注目され、大麻を受ける方が多くなったと報告され、今後も継続に努めたいと説明された。最後に座談会を終え、全ての日程を済ませた。



支 部	小 大 麻		中 大 麻		大 大 麻		大 麻 合 計		郷 土 暦	
	頒布数	増 減	頒布数	増 減	頒布数	増 減	頒布数	増 減	頒布数	増 減
甲 府 支 部	17,147	0	1,297	+ 18	197	+ 5	18,641	+ 23	550	+ 30
東 山 梨 支 部	13,166	- 118	352	- 11	163	- 2	13,681	- 131	390	+ 40
東 八 代 支 部	11,750	0	430	- 100	100	0	12,280	- 100	445	0
峡 南 支 部	9,051	+ 57	538	- 26	233	- 7	9,822	+ 24	1,200	0
峡 中 支 部	15,897	- 161	859	- 8	38	- 11	16,794	- 180	655	+ 5
峡 北 支 部	11,923	+ 89	485	+ 17	42	+ 2	12,450	+ 108	1,199	- 46
南 都 留 支 部	17,657	- 43	3,758	- 14	769	+ 31	22,184	- 26	7,850	0
北 都 留 支 部	3,430	- 60	4,635	- 210	212	+ 2	8,277	- 268	1,780	0
神 社 庁 扱	1,000	- 750	0	0	0	0	1,000	- 750		
合 計	101,021	- 986	12,354	- 334	1,754	+ 20	115,129	-1,300	14,069	+ 29

平成二十八年度大麻並暦頒布実績表
 平成二十九年一月

一都七県神道政治連盟本部長・幹事長・事務局長会議参加報告

神政連山梨県本部 幹事長

乙 黒 洋

去る三月八日、さいたま市大宮区「パレスホテル大宮」において、一都七県神道政治連盟本部長・幹事長・事務局長会議が開催され、神政連山梨県本部渡邊平一郎本部長 同飯田直樹事務局長と私の三名で出席致して参りました。

午後二時開会となり、埼玉県本部押田豊本部長に合わせ、会場正面に掲げた国旗を通して神宮を遥拝し、国歌斉唱、埼玉県本部 東角井真臣青年隊長先導の下、宣言・綱領の唱和と進んだ後、当番県を代表して押田本部長が挨拶。続いて埼玉県神社



庁 中山高嶺庁長より歓迎の挨拶を戴いた後、打田文博神道政治連盟会長より祝辞を頂戴致しました。

会議となり、押田本部長を議長として選出後議事に入り、始めに中央本部活動報告を同本部小間澤肇事務局長が行い、引き続き各都県本部よりの活動状況報告となり、茨城県本部は高部博事務局長、千葉県本部は湯下正博幹事長、栃木県本部は堀口邦夫事務局長、神奈川県本部は石川正人本部長及び土岐淳事務局長、群馬県本部は高橋建雄幹事長、東京都本部は三宅德行幹事長、そして当県本部からは私が報告者としてそれぞれの県本部の報告を行いました。それぞれの報告を下に質疑応答となり、特に中央本部への質問・要望が出され、小間澤事務局長より丁寧な答弁・的確な説明がなされた後、押田議長より、長く神政連活動に携わり、現会長として尽力されている打田会長が抱く様々な想いをこの機会に語って戴きたいとの切なる願いを受け、打田会長の赤誠溢れる想

いを拝聴致しました。

その後、次年度当番県として茨城県本部 石崎雅比古本部長より、明年お待ち申し上げていくとの挨拶がございました。

その後、会場を移し懇親会となり、胸襟を開き、盃を傾けながら現下の諸問題への取り組み、各種活動・施策に向けた意見交換を行うとともに、懇親を深めて参りました。

翌朝は渡邊本部長・飯田事務局長とともに氷川神社に参拝させて戴き、同神社境内に新築相成った、埼玉県神社庁庁舎の見学を致して参りました。尚、本会議に出席の各都県本部長各位が見学に訪れており、中山庁長にお出迎え戴き、神社庁職員から新庁舎の説明を受けて参りました。

神政連時局研修会

神政連山梨県本部

青年隊長 遠 藤 倫 夫

去る二月二十七・二十八日の二日間、東京の自由民主党本部において、「憲法改正を考える」

時局対策連絡会議が開催され、当県から乙黒幹事長と私の二名で参加した。

開会式では打田神政連会長、来賓の高村自民党副総裁、城内衆議院議員の挨拶の後、日本政策研究センター代表の伊藤哲夫先生より基調講演が行われ、様々な資料を基に憲法の歴史、改正の必要性、改正点、今後の論じ方、進め方等の持論を展開された。講演後は各班に分かれて議論を行った。

二十八日は、城内みのある衆議院議員が司会のもと全体会として班ごとに意見を発表した。各地での改憲啓発活動により、ある程度数は増えてきているものの、国民の気運が高まっているところには至っていないこと、与野党含めすべての改憲派が納得できるような内容を用意しないと発議されないこと、発議後の国民投票にむけて、先の参議院選の投票者数を参考に各支部で何票必要なのか数字を出すべき、との意見があった。

今回参加した事により、大変良い刺激を受け、全力で地道な活動が続け、憲法改正を起こせるよう取り組みたいと思う。

美しい憲法をつくる国民の会

中央大会に参加して

神政連山梨県本部 本部長 渡 邊 平一郎

美しい憲法をつくる国民の会中央大会が、三月二十九日憲政記念館に於て満席の参加者と、四十名を越す衆参国會議員出席者のもとに開催された。当日は、当本部主催の靖國神社参拝旅行と重なり途中退席することになり、参加いただいた皆様には大変失礼を致しました。

さて、大会ではいままでの活動記録が映像によって映し出され、衆参で三分の二の議席を獲得した今、国民の多くに憲法改正の意識を高めて改正に繋げたいとの報告があった。この後の国民の会共同代表の櫻井よしこ先生の基調提言では「今は百年に一度の激動の時代であり、我が国を取り巻く東アジアの情勢、取り分け中国による尖閣諸島の領有権の主張の激化とそれに伴う行動、北朝鮮の度重なるミサイル発射、韓国大統領の不正に失職とそれに伴う政治の混乱など看過できないものがある。比較的平穏な二千七百年に及ぶ我国の歴史の中で、白村江の戦い、元寇の役、日清・日露の戦争、大東亜戦争など全て朝鮮半島が関係して戦争があつ

た。この激動の時、一刻も早く憲法を改正して自衛隊の存在を憲法に明記し国防に備え、子供や孫にこの国をつなげる為に我々の手で国会を動かし憲法を改正して国の在り方を考え国造りをする」との提言があり、続いて衆議院憲法審査会の報告があり、「具体的論議は少しずつではあるけれども進み始めています。けれども各党の思惑があり、九条の改正より、緊急事態条項の制定から始めた方が纏り易い」との報告があった。続いて、打田事務総長より、二十一世紀の日本のあり方を提唱する憲法改正の啓発活動と憲法改正の国会発議へ向けて、各党に改正原案の国会提出を求める活動を推進し、一千万賛同者を達成し、国民投票勝利に向けた地域、団体ネットワークを形成するなど、の国民運動方針が発表された。その後、自民党・民進党・公明党・日本維新の会・日本のこころの各党代表の憲法改正へ向けての挨拶と出席の国會議員の紹介があり、憲法改正への提言が三人の代表から為され、勝関を上げて締め括った。

靖國神社参拝・

恵比寿ガーデンプレイスの旅

神政連山梨県本部 代議員 渡 邊 學

去る平成二十九年三月二十九日、神道政治連盟山梨県本部主催の靖國神社参拝・恵比寿ガーデンプレイスの旅が開催された。

当日、県下各地より参加者が談合坂サービスエリアにて合流し県内八支部一八〇名がバス四台で参加しました。

当日は、花曇りの陽気で三月二十一日東京の桜の開花が発表されてより寒い日が続き、靖國神社の桜も咲き始めた中での参拝となりました。

参集殿で主催者、神政連山梨県本部長渡邊平一郎氏と山梨県神社庁副庁長小佐野正史氏、靖國神社徳川宮司、国會議員の長崎幸太郎氏、中谷真一氏、堀内詔子氏、宮川典子氏に挨拶を頂きました。参議院議員山谷えり子氏と有村治子氏の代理の御出席を頂き参集にてお祓いを受けて、堀内詔子氏と共に昇殿参拝し大変有意義な正式参拝ができました。

参拝後、遊就館に展示される英霊のご遺書や遺品と貴重な収蔵品を見学し、国、家族のために尊い命を捧げられた英霊のみにここに触れることができました。

靖國神社よりバスで移動する車中で赤池誠章氏のメッセージが発表され恵比寿ガーデンプレイスで昼食をすませ、散策を行い、戦後七十二年平和に生活出来ている、今靖國神社に祀られる英霊に改めて感謝しつつ帰路につきました。



一都七県神社庁連合会総会

甲府支部 支部長 秋 山 忠 也

季節は雨水、大地が潤い目覚める頃二月二十日、一都七県神社庁連合会総会会場、ザ・プリンスパークタワー東京に向かった。

会場到着後、正副庁長始め参加者十六名受付を済ませ、第一部基調講演に臨んだ。講師は（株）JTB総合研究所コンサルティング事業部主任研究員河野まゆ子氏で「神社を中心とした地域活性化」と題して講演された。

先生は綿密な調査データに基づき講義を進められ、特に観光に限定する訳ではないが、と前置きされ所謂DMOという概念から見た社寺に対する期待から神社の活性化を通じて地域の産業を元気にすることができるとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視座に立った観光地域づくりが神社の活性化となると説いた。

次に、取組については、氏子の減少とコミュニティ縮小の一方で遠方からの参拝者の増加、お守り、御朱印を求めて訪れる人、インバウンド（海外から国内へ来る観光客）を含め消費も期待される。近隣の人（氏子）の足をこちらに向け、遠くから来る人（崇敬者）を呼び込む施

策を模索する。

又、若年層ほど「日本文化」や「精神性」への希求が強い傾向がある、反面世界で様々な紛争が起こっている状況の中で成長した若年層が「宗教」「信仰」という言葉に一定の抵抗感を持つことは否定できない。この距離を縮めるには年中行事や人生儀礼を通じ神社が身近な事を伝える事が鍵となる。

そして、地域コミュニティ活性化に資する取組として学校や地域の主要産業との連携、災害時の避難機能など神社だからこそできる地域連携による面的な取組が不可欠と結んで講義を終えた。

続いて第二部のシンポジウムでは本県の古屋真弘理事がパネリストの一人として登壇、二十五年後には全国で四割の神社がなくなるといわれるなかで本県で取り組んでいる不活動神社対策について又、常に「考えることをやめない」が神職としての心構えとして大事であることを経験談も含め巧みな話術で語った。

休憩後総会となり宣言が採択され、懇親会を終え終了した。翌日は小野照崎神社を正式参拝後直会、帰甲となった。

神宮初参り

浅間神社 総代 丸 山 伊 一 郎

山梨県神社庁の神宮初参りが、去る一月十八日から二泊三日の日程で開催された。今回初めて初参りの旅に参加する機会を戴き、一宮よりバスの人となる。車窓より眺に染まる紅富士を仰ぎながら期待に胸が躍った。一路伊勢を目指し、先ず外宮に到着。凜とした清々しい空気の中で御垣内参拝。内宮に移動し、宇治橋からの広い神域を進む。昨年G7首脳が神宮を訪問された事も有り、参拝者で溢れていた。姿勢を正し御正殿に向かい御垣内参拝。夕刻神宮を出発、鳥羽湾を望む野天風呂で快い疲れを癒し、楽しい宴となった。

翌日は桜の名所、奈良県吉野山の麓から昨秋デビューの観光特急列車「青のシンフォニー」に乗車。ホテルをイメーじした濃紺色のラウンジ車両で近鉄大阪阿倍野橋駅までの車窓風景を楽しんだ。続いて「あべのハルカス」に上がり、三〇〇mの展望台より生駒山や大阪の町並みを望む。二日目の宿は六甲の山峡に湧く日本最古の有馬温泉。金泉、銀泉と呼ばれる異なる源

泉に浸かり最終日に備えた。

三日目は、昨年国宝に指定された石清水八幡宮へ。極彩色の壮麗な欄間彫刻が施された八幡造りの御本殿で正式参拝。織田信長公寄進の黄金の樋や楼門、廻廊等に目を奪われる。又両陛下や皇族ご参拝の際の貴賓室である「書院」を特別に拝観、田中朋清権宮司様より襖絵や調度品について丁寧な説明を戴いた。旅の締め括りに伏見を経由し、甲府への帰路についた。

今回の旅では、貴重な体験を通して多くの事を学ぶ機会となりました。結びに山梨県神社庁の皆様への御配慮に感謝申し上げ、神宮初参りの報告とさせて戴きます。



まんが古事記

くにうみ (第三話)



お子さん、お孫さんと、
神話の世界をお楽しみ下さい。



「全国神社保育団体連合会」提供
問い合わせ 東京都渋谷区代々木一―一二

電話 〇三―三三三九―八〇一―

神社本庁内

一冊 一二〇円

あらすじ

日本の国が誕生した頃、まだ国土は海の上をユラユラとただよっていました。それを見られた高天原の神さま方は、日本の国土をりつばなものにしようとして、伊邪那岐命・伊邪那美命の二人の神さまに天の沼矛という矛を授け、国造りをお命じになりました。二人の神さまは早速、その矛で海水をかきまわし、一つの島を造ると、そこに天降つて多くの島国、神さまたちを生みましました。しかし火の神を生むとき、伊邪那美命は大やけどをしてしまい、亡くなつてしまいました。悲しみにくれた伊邪那岐命は、伊邪那美命に会うために黄泉国へ向うのでした。







神 殿 例 祭

神道青年会

副会長 竹 埜 元 木

去る、一月二十六日、山梨県神社庁神殿にて例祭が斎行された。

斎主根津泰昇山梨県神社庁庁長、副斎主秋山忠也神社庁理事、献幣使渡邊平一郎神政連本部長、そして祭員として山梨県神道青年会、岡田美佐子、小佐野正崇、相田卓也会員、献幣使随員私竹埜の奉仕にて厳肅に斎行された。

神社庁神殿例祭は山梨県神道青年会会員四名が例年祭員として奉仕させていただいている。



習礼には先輩よりご指摘いただきと共にお互いの作法を注意しあい、常日頃から神社祭典奉仕をしている会員から不慣れな会員まで自分の祭式作法や姿勢を見直すいい機会となっている。

青年会同志共にこのような垣根を超えた祭典を通し、切磋琢磨し、より良い作法、祭典奉仕ができるよう精進したい。

神 職 初 会

南都留支部

副支部長 渡 邊 平 一 郎



県内各神社も、師走から正月にかけての大麻頒布、正月の準備、初詣と繁忙期を過ぎた一月二十六日に、神殿例祭並新年初会が例年の通り、神社庁神殿にて執り行われた。司会は南都留支部奉仕とのことで私が担当した。

正月も下旬の末ではあるが、新年の挨拶と共に初会が始まった。初めに参加者一同で国歌を

斉唱し、続いて近年恒例の「一月一日」も斉唱した。以前はテレビ、ラジオなどでよく耳にした「一月一日」の歌も、今ではほとんど耳にしなくなった。こうして斉唱してみると改めて意味深い良き正月に相応歌だと感じた。続いて年頭に当たつての根津庁長、中込総代会長の挨拶をいただいた後「憲法改正に向けて」との演題で、自民党県連幹事長の臼井成夫県議会議員による講演を拝聴した。自民党県連が、ようやく一本化された報告と、憲法改正に向けての取組、県議会への政策提言などを講話された。その後、直会に入った。

神 殿 祈 年 祭 に

奉 仕 し て

峡中支部 諏訪神社

宮司 齋 藤 実

二月十四日、神社庁神殿において神職・総代出席のもと、年の初めの春祭りである祈年祭が小生を斎主に、副斎主に穂坂武徳副支部長、祭員に内藤正隆、小野修、塚川宣和、典儀に小林英孝の各神職の奉仕により斎行されました。祈年祭は年穀の豊穰と国の安泰を祈る祭りであり往古から最も重要な祭りとな

れ、春には五穀豊穰を祈り、秋には収穫に感謝を捧げてきました。特に米の収穫量が人間の死活に影響することから神に祈ってきた祭であり、現在忘れがちな米の有り難さを再認識する上でも大切な行事で有ると思います。此の祭典奉仕は峡中支部同志の親交を深める上でも良い機会となりました。

先日、峡中支部の神職・総代の研修旅行があり、東京千代田区九段の昭和館を見学しました。平成十一年に開館し戦中・戦後の暮らしを後世代に伝承することを目的につくられ、其処に展示されていた詠人知らずの祈年祭の短歌を印象深く鑑賞しましたのでここに記させて頂きます。

民すべて耕し草取る心にて
つつしみ祈る年のみのりを

詠人知らず



教化講演を終えて

教化委員会

研修部長 今 橋 武

去る二月十四日、山梨県神社庁講堂において、祈年祭終了後、教化講演会を行った。

今回講師の方を選任するに当たり、庁長より七十周年記念事業の一環の不活動神社対策に多岐に活躍されている方で、山梨県神社庁杉森神社の岡田光統宮司という方が如何でしょうかとのご紹介があり、教化委員会に謀り、ご依頼する事となりました。

岡田宮司は、山梨県市出身で、國學院大學神道學科卒業後、神社本庁神社課長、財政課長を経て、平成二十三年四月より山梨県山梨市川内町の過疎地に杉森神社に自ら志願して宮司に就任され、不活動神社の再生、地域コミュニティ再生などに努力されております。講演は「不活動神社の合併及び解散の方法論と予防対策」という題で行って頂きました。

私は不活動神社対策に確かな持論を持っていらっしゃるわけでもなく、手法も知らず解らず、昨今の地域の過疎、少子高齢化の波が否応なく押し寄せてくる中、ただ漫然と毎日を過ごしておりましたが、岡田宮司の多岐に渡

る経験と駆使しての不活動神社の合併及び解散のモデルや方法などを、一時間という本当に短い中で、概略部分だけでしたが御教授頂きました。法人組織の合併及び解散でありますので、法的専門用語が多く中々理解し難い部分もありましたが、岡田宮司が様々な角度から取り組んでおられる活動に、私もこれから益々進んでいくであろう子数の減少による神社運営、管理の困難さを痛感し、多様な取組をして不活動神社発生の予防策を実施して行かねばと強く思いました。

岡田宮司には、遠く山梨からお越し頂き、充分な講演時間もない中、伝えたい事のほんの一部のみの講演で誠に申し訳なく思っています。

中込総代会長にも、終了後少しお話ができましたが、今後の対策委員会の活動にも良い指針に成ったのではと、ご意見を頂きました。

岡田宮司の講演は不活動神社対策委員会で引き続き行っていただければとの思いが強く残った講演会でした。



不活動神社対策協賛金

平成二十八年十二月一日から平成二十九年二月二十八日まで
に二一七名の皆様より八拾五萬円の御協賛を戴きました。
厚く御礼申し上げます。

御協賛者 五十一名

御協賛金 壹拾七萬九千円也

御府支部	御協賛者	御協賛金
甲府市	下鍛冶屋町 鈴宮諏訪神社	中澤裕
甲府市	上石田 三社諏訪神社	早川一哉
甲府市	上石田 三社諏訪神社	磯部昇
甲府市	上石田 三社諏訪神社	山中和男
甲府市	上石田 三社諏訪神社	森田和彦
甲府市	上石田 三社諏訪神社	浅川嘉昭
甲府市	上石田 三社諏訪神社	石原忠三
甲府市	上石田 三社諏訪神社	六戸忠三
甲府市	上石田 三社諏訪神社	嶋田章三
甲府市	上石田 三社諏訪神社	長田永年
甲府市	上石田 三社諏訪神社	小林尚武
甲府市	上石田 三社諏訪神社	望月正人
甲府市	上石田 三社諏訪神社	長谷川良明
甲府市	上石田 三社諏訪神社	小柳津照雄
甲府市	上石田 三社諏訪神社	堤恵二
甲府市	上石田 三社諏訪神社	三村良治
甲府市	上石田 三社諏訪神社	森塚英雄
甲府市	上石田 三社諏訪神社	大久保耕吉
甲府市	上石田 三社諏訪神社	長田芳文
甲府市	上石田 三社諏訪神社	清水義造
甲府市	上石田 三社諏訪神社	日本勝也
甲府市	上石田 三社諏訪神社	小保九二
甲府市	上石田 三社諏訪神社	保坂治
甲府市	上石田 三社諏訪神社	桑原統治
甲府市	上石田 三社諏訪神社	峰本古八幡神社
甲府市	上石田 三社諏訪神社	文珠稲荷神社
甲府市	上石田 三社諏訪神社	文珠稲荷神社
甲府市	上石田 三社諏訪神社	大橋昭彦
甲府市	上石田 三社諏訪神社	神宮司健男
甲府市	上石田 三社諏訪神社	上原勇七
甲府市	上石田 三社諏訪神社	小野良高
甲府市	上石田 三社諏訪神社	渡邊昌恵
甲府市	上石田 三社諏訪神社	朝氣 熊野神社

東山梨支部

御協賛者 二十三名

御協賛金 壹拾七萬壹千円也

御府支部	御協賛者	御協賛金
湯村	湯谷神社	廣瀬集一
横根町	八幡神社	氏子総代一同
美咲	御崎神社	種田一夫
美咲	御崎神社	御園生國雄
美咲	御崎神社	三間洋之助
美咲	御崎神社	佐藤仁史
若松町	一實神社	石川房蔵
若松町	一實神社	原田洋二
若松町	一實神社	福島正幸
若松町	一實神社	加藤雄一
若松町	一實神社	瀬田輝雄
若松町	一實神社	中山勉
若松町	一實神社	坂本雅哉
若松町	一實神社	三枝政
若松町	一實神社	鶴田和美
若松町	一實神社	浅利勝往
若松町	一實神社	松本昌利
元紺屋町	八雲神社	
牧丘町	金櫻神社	駒井賢一
勝沼町	水川神社	秋山英彦
勝沼町	水川神社	高野武治
勝沼町	水川神社	油井弘
上岩崎	福之宮神社	馬場英司
上岩崎	福之宮神社	和田鑑雄
上岩崎	福之宮神社	鶴島知也
上岩崎	福之宮神社	氏子総代会
上岩崎	福之宮神社	窪川正幸
上岩崎	福之宮神社	横森寿夫
上岩崎	福之宮神社	横森大祐
上岩崎	福之宮神社	菅澤康彦
上岩崎	福之宮神社	中古屋憲二
上岩崎	福之宮神社	名古屋憲二
上岩崎	福之宮神社	三富英雄
上岩崎	福之宮神社	吉本義行
上岩崎	福之宮神社	秋山秀夫
上岩崎	福之宮神社	倉持敏子
上岩崎	福之宮神社	山口正樹
上岩崎	福之宮神社	新田正明
上岩崎	福之宮神社	磯野修
上岩崎	福之宮神社	古屋正弘

山梨市 上ノ割 若松神社 楠忠

東八代支部

御協賛者 五十二名

貳拾參萬參千円也

御芳名

一宮町	田中	白山神社	氏子一同
荻川町	鶯宿	諏訪神社	宮川正之
荻川町	鶯宿	諏訪神社	宮川正之
荻川町	鶯宿	諏訪神社	市川央
荻川町	鶯宿	諏訪神社	山本真
石和町	四日市場	諏訪神社	津金潤
一宮町	中尾	中尾神社	山田武人
一宮町	中尾	中尾神社	堀内忠平
一宮町	中尾	中尾神社	依田進
一宮町	中尾	中尾神社	岩柳一誠
御坂町	上黒駒	戸藏神社	堀内文藏
御坂町	上黒駒	檜峰神社	堀内好男
御坂町	上黒駒	迎富士神社	岩間一己
御坂町	井之上	国立神社	大嶋利次
石和町	河内	佐久神社	河阪昌則
石和町	河内	佐久神社	谷島美行
石和町	河内	佐久神社	志村照夫
御坂町	竹居	天神社	瀬田裕司
中央市	高部	天神社	
竹輪八幡神社	秋葉神社	池田清三	
中央市	高部	天神社	
竹輪八幡神社	秋葉神社	込山芳行	
中央市	高部	天神社	
竹輪八幡神社	秋葉神社	長田正美	
中央市	大鳥居	山神社	有泉 勤
甲府市	石左口町	善藤八幡神社	志田英彦
中央市	関原	若宮 幡神社	井上昭夫
中央市	浅沼	諏訪神社	小沢 昭
中央市	大鳥居	浅沼愛鷹神社	水上政吉
中央市	大鳥居	磯崎神社	土橋英明
中央市	大鳥居	八幡神社	田中善信
中央市	大鳥居	諏訪神社	有泉洋
中央市	大鳥居	水神社	中沢義守
中央市	大鳥居	山神社	有泉勲
石和町	八王子神社	田中勝男	
石和町	八王子神社	田中野久雄	
石和町	八王子神社	中村忠夫	
石和町	八王子神社	窪田捷治	

峡南支部

御協賛者 三十九名
御協賛金 壹拾貳萬六千円也

御芳名

身延町	波木井	宮	花八幡神社
身延町	梅平	八幡神社	
身延町	杉山	八幡神社	
身延町	下山	境宮吉神社	
身延町	下山	北野天神社	
身延町	栗倉	八王子神社	
身延町	小原島	八幡神社	
身延町	下山	三宮飯綱神社	
身延町	下山	二宮下加茂神社	
身延町	下山	稻荷神社	
身延町	下山	一宮賀茂神社	稲葉政信
身延町	万沢	浅間神社	近藤政房
南部町	万沢	民間神社	
身延町	丸瀧	神明神社	塩谷字
身延町	丸瀧	神明神社	佐野純一
身延町	丸瀧	神明神社	依田忍
身延町	丸瀧	神明神社	望月満也
身延町	三川三郷町	上野 表門神社	杉山昭
市川三郷町	上野	表門神社	丹沢治夫
市川三郷町	上野	表門神社	丹沢嘉雄
市川三郷町	上野	表門神社	村松和彦
市川三郷町	上野	表門神社	雨宮洋光
市川三郷町	上野	表門神社	月宮久
富士月町	鯉沢	出世稻荷神社	

峡中支部

御協賛金 三十二名
壹拾五萬五千円也

御芳名

	甲斐守	埴科明神社			
南アルプス市	湯沢	八幡神社	依田健		
南アルプス市	湯沢	八幡神社	野田金美		
甲斐市	玉川	若一王子神社			
南アルプス市	上今諏訪	諏訪神社	加藤和広		
南アルプス市	上今諏訪	諏訪神社	坂倉健治		
南アルプス市	上今諏訪	諏訪神社	藤井昌樹		
南アルプス市	上今諏訪	諏訪神社	柳澤清		
南アルプス市	上今諏訪	諏訪神社	柳澤茂雄		
南アルプス市	上今諏訪	諏訪神社	久保田和美		
南アルプス市	上今諏訪	諏訪神社	飯室正文		
南アルプス市	上今諏訪	諏訪神社	原明夫		
南アルプス市	上今諏訪	諏訪神社	原康教		
南アルプス市	上今諏訪	諏訪神社	金丸幸光		
南アルプス市	上今諏訪	諏訪神社	金丸敏宣		
南アルプス市	上今諏訪	諏訪神社	高木茂仁		
南アルプス市	上今諏訪	諏訪神社	田畑大生		
南アルプス市	上今諏訪	諏訪神社	築地光子		
南アルプス市	上今諏訪	諏訪神社	渡辺正夫		
南アルプス市	十日市場	若宮八幡社	小池康郎		
昭和町	上河東	熊野神社	氏子一同		
南アルプス市	在家塚四・五区	天神社・稲荷社	中込芳廣		
南アルプス市	在家塚四・五区	天神社・稲荷社	岩間憲治		

峡北支部

御協賛者 九名
御協賛金 壹萬円也

御芳名

伊野町	三之藏
明野町	小笠原 伊勢大神社
明野町	小笠原 八坂神社
明野町	小笠原 五辻神社
明野町	小笠原 五辻神社
明野町	新藤武彦 五辻神社
葦崎市	神山町 武田八幡宮
葦崎市	大草町 神明神社
葦崎市	竜岡町 石宮神社
葦崎市	竜岡町 唐土神社
北都留支部	
御協賛者	十二名
御協賛金	参萬六千円也
御芳名	
上野原市	桐原 日寄神社 石田実
上野原市	桐原 軍刀利神社 小佐野進
上野原市	桐原 軍刀利神社 吉村智文
上野原市	桐原 軍刀利神社 石井敏正
上野原市	桐原 軍刀利神社 鷹取宏
上野原市	桐原 軍刀利神社 鷹取忠廣
上野原市	桐原 軍刀利神社 鷹取潔
上野原市	桐原 軍刀利神社 長田潤一
上野原市	桐原 軍刀利神社 黒田義巳
上野原市	桐原 軍刀利神社 石井桂介
上野原市	軍刀利神社 和田ヨシ子
賑岡町	畑倉 春日神社 小俣英雄

支部だより

峡南支部

支部長 市川 行 治

三月四日、峡南支部恒例の『春の神職氏子合同研修の旅』に出発しました。

参加者は四十九名、目的地は駿河国一宮、富士山本宮浅間大社と関東総鎮守箱根神社です。

出発時は曇りでしたが、当日は気温十五度との予報で、絶好の旅行日和が期待されました。峡南地区各町からの参加を頂き大型バス二台にゆつたりと分乗し、最初の目的地の浅間大社に向かいました。

土曜日ということもあり、正式参拝の後、結婚式が予定される中、権禰宜さんのご説明を受けながら、二重の楼閣作りの本殿や一秒間に三、六キロリットルの湧水がある湧玉池等の境内の説明を頂きました。

その後、昼食会場の『鈴廣かまぼこの里』に移動し、金目鯛の煮付けやかまぼこに舌鼓を打ちました。窓の外の満開の桜を肴に花見酒を楽しむ参加者もおられました。昼食後箱根に向かい、駅伝ミュージアムを見学後

箱根神社に正式参拝を行いました。箱根神社では、正式参拝の後小澤宮司様のご挨拶及び神社の由緒祭事のいわれ等をご説明頂き又、芦ノ湖の神である竜神を祀る九頭竜神社にも参拝させて頂くと共に、特別企画展を開催中の宝物殿の『箱根神社神像群』を拝観させて頂くなど、多くの参拝者で賑わう中、宮司様職員の皆様方に大変お世話になりました。有り難う御座いました。



峡中支部

支部長 塚川 宣 行

峡中支部の研修旅行が去る三月十六日に東京大神宮の正式参拝と築地での昼食・買物それから昭和館の見学というスケジュールにて三十六人の参加のもと開催されました。早朝、各地よりバスに乗りし途中渋滞がありましたが十時すぎに東京大神宮に到着しました。正式参拝のあとに会館にて湯茶の接待や禰宜さんの挨拶、説明を頂き大変有意義に過ごすことができました。

東京大神宮は明治天皇のご裁断を仰ぎ、東京における伊勢神宮の遥拝殿として明治十三年に日比谷の地に鎮座し、関東大震災後の昭和三年に現在地（千代田区富士見）に移り、「東京のお伊勢さま」と親しまれて、年間一〇〇万人あまりの参拝があります。現在広く行われている神前結婚式は、当社の創始によるもので、年間五〇〇・六〇〇の結婚式を行っているとのこと、一同その数の多さに驚き感嘆しました。その後、禰宜さんの見送りをうけ築地へと向かい、江戸前寿司の昼食をとり、今話題の築地市場の散策・買物をして昭和館へと向いました。昭和館は戦中、戦後の生活に係

る歴史的資料を展示している国立の施設です。召集令状・出征する人の無事を願う千人針・戦地とのやりとりの手紙など具体的な資料があり、また戦後の生活用品・食糧事情・住宅事情などの生々しいものを目の当りに見て、それぞれ色々考えさせられました。

参加者各位のご協力により、楽しく有意義な研修旅行になり、予定通り無事に峡中各地に帰着致しました。



神道青年会活動報告

北方領土返還要求運動

神道青年会

会員 岡 田 美佐子

山梨県神道青年会には諸先輩方から受け継がれてきた様々な事業・活動がありますが、去る二月七日に行われました北方領土返還要求運動もその一つです。

当日は午前七時三十分に甲府駅南口に集合し、昨年同様北方領土返還要求運動山梨県民会議の方々と共に啓発活動を行いました。本年はイメージキャラクターとロゴの入ったボールペンとチラシを挟んだマスクを駅頭にて配布し、県民一人一人の意識の高揚に努めました。駅周辺での啓発物配布活動終了後は、更に多くの県民に北方領土への関心を深めてもらうべく街宣活動を行いました。

近年、北方領土を巡るロシアとの交渉は新たな局面を展開しつつあります。昨年十二月には日露首脳会談が開催されました。問題解決に向けて議論がなされ交渉の進展が期待されていましたが、共同経済活動が先行し、残念ながら具体的な解決策

は挙げられずに終了したように思われます。

ロシアの極東開発が進む中、領土問題は非常に難しい現状であると言わざるを得ません。元島民も高齢化が進み、世論が消極的に変化してしまえば日本の立場は厳しくなる一方ではないでしょうか。この様な中で返還要求運動を継続する事こそが問題解決の足がかりになるものと考え、青年会では引き続き尽力して参る所存です。そして一日も早く、この活動を笑顔で終了させる日が来る事を願っております。

女子神職会活動報告

女子神職会

会長 津 金 八千代

常に神様の大きなお見守りとお導きの中、沢山の方々に支えて頂きながら、本年度の事業が行われます事に心より感謝申し上げます。

女子神職会では、舞の研修を重ねておりますが、数ヶ月に一度のお稽古では、舞の習得と伝承は難しいと常々感じておりましたので、庁長様を始め役員の皆様のご理解ご承諾を得て、一

ヶ月に一度の稽古を行う事となり、一月十六日神社庁にて第一回自主稽古を四名の参加を以て行う事ができました。

舞は形を通して、その奥に流れる神様を敬い少しでも喜んで頂ける様にとの、日頃の感謝の思いが形になったものです。

一月三十日甲府サドヤにて初会。会議後、食事を歓談の中で会員の親睦を深めました。

二月十八日初めての場、山梨市牧丘町総合会館にて浦安の舞奉奏。簡易神棚を設け、御神札を納め神饌をお供えた前で、武田神社様の本装束をお借りして、会員二名雅楽会の演奏に合わせて奉奏させて頂きました。この日来た将来の舞姫さん達も、教化の面でお勉強になった事と存じます。

二月二十三日全国女子神職協議会関東地区研修会開催。本年度は群馬県が当番県であり、当会より五名参加致しました。ホテルアミューズ富岡にて開講式、昼食後一之宮貫前神社に正式参拝。参拝後、十二年毎の貫前神社式年遷宮の年に当たり、申年の十二月十二日に仮殿遷座祭、翌西年三月十三日に本殿遷座祭が斎行されました。その間

に参拝できた私達は、本殿と仮殿を同時に拝観する貴重な時期に恵まれました。又、拝殿には神様が入りする正方形の小窓が在り、珍しい造りになっておりました。次に世界遺産となった富岡製糸場を見学。明治時代、日本近代化の幕開けとそれを支えた工女達の活躍を観る事ができました。講演は『皇室と富岡製糸場との関係』と題して富岡製糸場名誉顧問、富岡製糸場総合研究センター所長、今井幹夫先生にお話頂きました。閉講式と続き帰路に就きました。

三月二、三日神社庁主催の浦安の舞講習会参加。飯田淳美先生にご指導頂き、舞い続ける事の大切さを痛感致しました。

三月十四日第二回舞の自主稽古。(二名参加)

講演会を通して勉強させて頂きました所から、今後とも会員一同、清朗な誠の心を以て神様と皆様を繋ぐお役目に益々励みたく存じます。



憲法改正を学ぶ講演会

小佐野 正 崇

平成二十九年四月十三日、甲府市のコラニー文化ホールに於いて、櫻井よしこ氏を講師に迎へ、約一六〇〇名参加のもと憲法改正を学ぶ講演会が行われた。

まず、美しい日本の憲法をつくる山梨県民の会会長の横内正明前山梨県知事、自民党山梨県連会長の森屋宏参議院議員の主催者代表挨拶、国会議員の赤池誠章氏、中谷真一氏、宮川典子氏の挨拶の後に講演となった。

講演会で櫻井氏は、北朝鮮の軍事行動など国際情勢を大局に立って解説され、安全保障法制と憲法改正の必要性や、現行憲法では国民と日本国を守ることはできないから、改正への決意を固めないといけないと主張した。また、憲法は国民の命を守るもの、安全な生活を守るものと指摘。日本国の歴史、伝統、文明、価値観を盛り込んだ私たちの憲法を目指すべきだと訴

祭典日程

4・29	4・28	4・25	4・22	4・21	4・19
幡宮祈年祭	山縣神社神徳顕彰祭 大月市駒橋三嶋神社春	御岳町金桜神社春祭例大祭（23日） 新屋漣神社春祭例大祭 （孫見祭）	勝山富士御室浅間神社春祭例大祭 （はな祭） 河口浅間神社例大祭	新屋漣神社春祭例大祭 （孫見祭）	軍刀利神社例大祭 新屋漣神社春祭例大祭 （孫見祭）



え、大きな拍手が起こった。

最後の宣言で憲法改正のため
の国民運動の盛り上がり誓った。

7・17	7・16	7・9	7・8	7・7	7・1	6・30	6・24	6・9	5・28	5・21	5・12	5・9	5・7	5・5	5・3	5・2	4・30	
大嶽山那賀神社廿四酒祭（18日）	甲斐市西八幡八幡神社茅の輪祭	大月市七保町下和田春日神社例大祭	帯金八幡大神社祇園祭り	都留市田舎倉嶋神社夏季例大祭	山梨市野吉神社夏季例祭 田植祭	山梨市下栗原宮五所天神水防祭	山小御嶽神社開山祭	北口本宮富士浅間神社開山祭 富士越大祓	忍哉浅間神社国重要文化財指定記念祭	稲積神社お田植祭	下部能野大神社奉養例大祭	北斐一宮浅間神社梅折枝神事	甲斐市大泉町谷口逸見神社例大祭	北斐市富竹新田神明神社例祭	梨市西大八田建嗣神社例祭	北口本宮富士浅間神社初申祭 山梨市下石森山梨岡神社つづじ祭り 山梨市西大八田建嗣神社例祭	北口本宮富士浅間神社初申祭 山梨市下石森山梨岡神社つづじ祭り 山梨市西大八田建嗣神社例祭	祭 昭和の旦 甲斐市中下条松尾神社例大祭 北杜市高根町長沢船形神社春の例大祭 大月市幡野八幡神社例大祭 玉諸神社梅折枝祭 北杜市高根町建部神社奉祭

今後の予定

○第四回神社検定（神道文化検定）

神社検定は神社が好きな方、日本をもっと知りたい方のための検定です。毎年テーマを変えて行われる神社検定は神社本庁監修のもと、より多くの方々に神道や神社についての正しい知識を学んでいただく検定です。

一、日時

平成二十九年六月十八日（日）

【参級】午後一時～午後二時二十分

【貳級】
【壹級】

午後三時二十分～午後五時

一、場所

山梨県神社庁

一、受験資格

制限はございません。参級と貳級は併願可能です。

壹級は貳級合格者のみ受験可能です。

合格基準

参級・貳級・壹級とも一〇〇問中

七〇問以上の正解

申込期間

平成二十九年五月十一日（木）まで

一、受験料

【参級】四、九〇〇円

【貳級】五九〇〇円

【壹級】六九〇〇円

参級・貳級併願書引九 七〇〇円

申上食三

神社検定事務局